

教員名	土谷 岳史	所属学科	国際
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>ヨーロッパの政治や社会を研究対象とするゼミです。日本とは異なる社会を見ながら、ひろく社会科学のなかの批判的視点を培うことを目的としています。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>批判的視点を獲得するには自分自身のこれまでの知識・経験を相対化し、多様な視点を獲得しなければなりません。その基本は学術的知識との出会いです。学術とは反省の産物だからです。したがって本ゼミでは輪読を中心に行っていきます。</p> <p>まず2年では多くの書物と出会うことを目的とし、入門書を中心に文献を読んでいます。テキストを的確に理解すること、そのためにゼミの仲間に自分の見解を表現し、対話の中で理解を深めていくことが目指されます。夏休みと春休みにはレポートを作成します。自由にテーマを選び、自分自身で調査考察し、それを的確に表現する訓練をします。2年次に課される多くの課題は卒業論文執筆のための基本となるものです。</p> <p>3年生は引き続き輪読をしていきますが、今度は本格的な研究書を読んでいます。テキスト読解に求められるレベルは格段に上がります。後期は卒業論文の執筆のためのゼミ生による研究発表を行います。3年次から自分でテーマを探し、研究をしていくことで学術的に高度なことはもちろん自分自身で納得のできる論文を書くことを目指します。4年次は卒業論文を書くことで大学での研究成果をまとめます。</p> <p>夏休みには全ゼミ生が参加する合宿を行っています。全ゼミ生が発表をし、議論を交わすだけでなく、ともに過ごすことで交流を深めます。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b></p> <p>ヨーロッパに関する国際的な知識は今後の生活でもひとつの参照点となるでしょう。それ以上に、テキストを正確に理解し、自分の見解を文章化し、他者に伝えることはどのような職業に就いても、どのような人生を歩んでも必要なことだと思います。卒業生は、公務員や証券会社、メーカーなどに進んでいます。大学院に進学し、研究を続けている卒業生もいます。</p>			
<p><b>【おすすめの入門書・基本テキスト】</b></p> <p>丸山眞男（2010）『丸山眞男セレクション』平凡社ライブラリー  岡田憲治（2014）『ええ、政治ですが、それが何か?——自分のアタマで考える政治学入門』明石書店  E. H. カー（2011）『危機の二十年——理想と現実』岩波文庫</p>			
<p><b>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</b></p> <p>行動することはもちろん重要です。しかし同時に、ふと立ち止まり考えてみることも大切です。そのための自分自身で反省的に思考する力を手にしてほしいと思います。</p>			